

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

旅費問題について、県教委と懇談をすることになりました

かわらばん 469 号で話題にした旅費問題についてのその後の経過を報告したい。10 月に、私のネットワークを使って県内山岳部顧問の皆さんにご協力いただき、山岳部の旅費支給についての状況を調べてみた。結果、食費については領収証分の実費支給が 3 校のみで残りの学校は 2200 円の定額支給だった。ちなみに実費支給の 3 校はいずれも特定の地域の学校である。食卓費については、テント泊であっても定額 2200 円を支給することは旅費規程の改定直後から行われてきた経緯がある。そこで、このことについて高体連登山専門部として何らかのアクションをしたいということで、まずは部長である大町北高の麻田校長に、校長会などの折りに、「山岳部引率の実情を伝えながらこれまでの経緯をふまえた旅費支出をしていただくよう」お願いをした。

一方で、高教組本部とも相談しながら打開策を探り、個別に県教委との間で懇談をする機会を作っていただけよう働きかけてきた。その流れの中で、去る 1 月 7 日に今年度の高教組の独自確定交渉が行われた。僕はこの交渉に参加し、これまでの経緯を説明しながら、山岳部の生徒引率の独自性、旅費支給に係る過去の経緯ならびに 2006 年 4 月 1 日付けの県教委の文書が事務室の中で伝達されていないこと、またその文書に書かれた雑費としての支給対象となる例示物品の検討は当初からの約束事項だったこと等をかいつまんで説明し、これらについて日を改めて懇談をする機会を設定し、要望を聞いて欲しい旨訴えた。それについての県教委の返答は「懇談の機会をもって話を聞きたい」というものだった。

そんなわけで、年度中（2 月上旬を予定）に高教組を介して県教委担当係との間で懇談をすることが確約された。本部役員ならびに県執をしている下岡さんにも話に入っただき、下記に寄せられた意見などを訴えながらこれまでの経緯が活かされるような話に持って行きたいと思っている。このような形で山岳部の意見を聞いてもらえることはそうはないので、これ以外にも伝えたいことなどがある方は大西までお寄せ下さい。以下に 10 月に行ったアンケートの際、私のところ寄せられたご意見を上げます。

*旅費に関するアンケートのまとめ（学校名ならびにそれが特定される表現は伏せました）

- ・乾電池、燃料(ガスボンベ)などは毎回到支給があつていい。(毎回請求しています。)
- ・新しいものほともかく、せめて今まで認められてきた燃料代、水代等は、引き続き支出されるよう強く要望します。
- ・県の通知で認められているものはあくまで一例に過ぎず、消耗品についてはあがってきたものは現場の意見を元に認めていただきたい。
- ・今年度から北アルプスと御岳ではトイレが全面有料化されたが、チップ制度であり、領収証払いというのはなじまない。環境保護、県のスタンスからしても定額で支給して欲しい。
- ・食卓費を改めようなどと言うなら、顧問に山小屋の宿泊を推奨すべき。山岳部顧問には体力の負担と同様、引率隊の計画準備（自らの準備も含む）の負担が大きいのに、

生徒と分けにくい領収書の提出など、更に準備を煩雑にするのは、折角復活しつつある山岳部の活動を細らせる。

- ・特別な手当はいらないが、旅館等に宿泊した場合と同等の利便性を考えて欲しい。
- ・湯茶のサービス、暖冷房、入浴等、テント泊にはどれも無いこと。(全て自分持ち??) 食卓料の領収書払い?では、食料の運搬料、炊事料、用具の使用料等々必要経費項目はたくさんあるのだが、其れをいちいち証明するのは大変、面倒だから請求しない。そうすると相手側は、請求されないから出さない。・・・・・・負の連鎖だあー・・・・。
- ・引率業務をする上で必要な負担経費は、必ず支給する姿勢で対応していただきたい。
- ・昨年夏休みの夏合宿で、宝剣～空木岳～池山を一泊二日しました。その時に、本来は駒峰ヒュッテに宿泊の予定でしたが、1日目、昼の時点で駒峰ヒュッテに着くのが夜になってしまうと判断し、危険なため、急遽、檜尾避難小屋に泊まることになり、校長には電話連絡を入れました。避難小屋は管理人が不在であるので、利用料金として1人千円入れるように書いた紙の貼ってある木の箱があり、私たち引率職員分と生徒分を合わせた額を入れました。しかし、当然領収書などありません。領収書がなければ駄目だということで、私たちは自腹を切る形になりました。今年の新人戦で、生徒と共に夕食を食べたということと、また地区の事務長の会議で、山岳部の引率に関わる食卓料は実費でいいのでは、という話題が出たことを理由に食卓料をレシートの人割りでしか出さないと言われ、抗議しましたが、本校の事務の方が、わかってくれません。山での食事というのは夕食が充分な量ではないため、個人でも多くの食糧を持って行っています。また、ホテルに泊まるような引率の方が布団で、トイレもあり、寒くもないところで過ごせるのと違って、山はトイレもお金を払わなければ入れませんし(当然領収書などありません)、小屋やバンガローであっても寝袋で氷点下になるような板の間で雑魚寝しているのです。顧問をするにあたって、私の場合、趣味ではなく初任で断ることも出来なかったため、しかたなく山の装備を揃えました。総額20万円は超えました。毎回の登山でも、遭難に備え、食糧と水、医薬品を個人で5000円以上は買って持っていています。顧問を辞めたくても、自分のクラスの生徒がたくさん入り、生徒がイキイキと活動しているのを見ると、無責任に放り出すわけにもいきませんし、生徒の頑張る気持ちを支えてあげたい、という思いで今は顧問をしているのです。また、山岳部を引き受けてくださる先生もいません。顧問をするにも、他の競技と違い、一緒に登らなければならない競技であり、装備にお金がかかるのと、体力的にキツイのと、一度足を踏み外したら、生徒が死ぬ可能性が毎回の登山においてあるスポーツだからです。山岳部にのみ、実費と事細かくこだわる事務の方の言い分は到底受け入れられるものではなく、山岳部の特性と実態に全く理解がないことに、憤りと理不尽さを感じます。私自身も二度の申し入れをしましたが、私が若いせいもあるのか、全く聞く耳を持ってくれないのです。教頭に話したところ、理解を示してくれましたが、教頭は、高体連の専門部が持っている情報があれば欲しいと言っていました。しかし、もし、組合で交渉をしていただければ、県の回答を待ちたいと思います。感情にまかせた文面で申し訳ありません。
- ・生徒を山岳地域に引率するという業務の特殊性を十分認識していただきたい。
- ・旅行経費についてどのようなものの支給が認められているのか、私自身がよくわかっていなくていけないのですが、認められているものを勝手に削られるのは困ります。